

稗搗の謡 (松口月城)

屋嶋の 浜 壇の浦の 辺

平家の 末路 亦 憐むに 堪えたり

残党 隠遁す 上 椎葉

山岳 深き 処 炊煙を 見る

民謡 庭の山椒の木なる鈴かけて

鈴のなるときや出ておじやれ

哀話 綿綿 栄華の 夢

稗搗の 俚謡 今に 至るまで 伝う

屋嶋之浜壇浦辺 平家末路亦堪憐  
残党隠遁上椎葉 山岳深処見炊煙  
哀話綿綿栄華夢 稗搗俚謡至今伝

解説 源氏と平家のロマンスを謡った詩。

語釈 ※稗搗謡 〓宮崎県東臼杵郡椎葉村で歌われてきた民謡。 ※屋嶋 〓香川県高松市の東北に位置する。 ※壇の浦 〓本州最西部に面する関門海峡の一角で、壇ノ浦の戦いの戦場。 ※隠遁 〓世の俗事を捨て隠れ住むこと。 ※上椎葉 〓宮崎県東臼杵郡椎葉村。 ※炊煙 〓炊事の煙。 かまどから立ち上る煙。  
※民謡の内容 〓宮崎県民謡で椎葉村には平家の落人伝説が残り残されており、歌詞にも、那須大八郎(源氏)と鶴富姫(平家)とのロマンスが盛り込まれている。  
※綿綿 〓長く続いて、絶えないさま。 ※栄華 〓栄えること。 また、ぜいたくをすること。 ※ 〓

通釈 屋島の戦い、壇ノ浦の戦いに敗れた平家の末路は不憫で耐えがたい。戦いに敗れた平家の残党は上椎葉に隠れ、山深きところに炊煙が立ち上る。民謡に謡われた内容は「庭の山椒の木に付けた鈴が鳴ったときは何人かが来た印だから気をつけよう」悲しい話は絶えないが、ここから戻ることが出来る夢は持ち続けよう。稗搗の謡は今に到るまで伝えられるで有ろう。